

北海道算数数学教育会小学校部会会報

第 72 号

さんすう

H11・11・17

北海道算数数学教育会

小学校部会発行

札幌〈日新小学校〉大会を終えて

北海道算数数学教育会

小学校副部会長

釧路市立城山小学校長 山下保雄

第54回北海道算数数学教育研究大会札幌大会が全道各地から多数の参加者を迎え、9月16日から二日間、札幌サンプラザと日新小学校（小学校部会）を会場に開催され共通研究主題「未来を創造する算数・数学教育」～新しい学力観に立った学習指導の展開～の最終年度に相応しい成果を上げ、成功裡に終えることができました。

早くから綿密周到な計画や準備を進められ、円滑な運営にご尽力をいただきました日新小学校の先生方、並びに関係者の皆様にご心から感謝申し上げます。

初日の講習会では、新教育課程に向けて各部会ごとに講師の先生方から新学習指導要領のねらいや要点について解説していただきましたが、大変好評でありました。

開会式で安藤会長に引き続いて来賓として挨拶された日本数学教育会の杉山会長は、「昨年国際的な学力調査によると、シンガポールが1位。学校は二部制で子供たちには遊べないくらい宿題が出る。しかし、『算数・数学が好き』という項目でもシンガポールが1位であった。日本では、内容を少なくして『生きる力』を培うと言うが、本当に正しいのかどうか」と、新しい教育の根幹に係わる重要な示唆をいただくとともに本大会への期待が寄せられました。

開会式に引き続いて、北海道航空株式会社代表取締役会長の中村晃氏が「今、北海道に求められていること」と題して講演されました。「理念や特色を持たない企業は生き残れない。中央依存でなく、自分でという姿勢が大切。国際人とは、日本人としてのアイデンティティを持つこと」など、刺激的で活力が湧く講演でした。

さて、本大会は、小学校部会としては、4年次研究構想の初年度として、研究主題の「豊かな心を育てる算数教育」を踏襲しながら、副主題として「自ら学び、共に追求する問題解決の創造」を掲げ、新たな研究をスタートさせました。

新研究では、まず、算数教育において数理を追求したり、仲間との交流を通して「豊かな心」を育て、問題を

解決する資質や能力、豊かな人間性などの「生きる力」を培うことを基本に据えています。

次に、これまでの研究の成果と課題を踏まえた副主題の設定に伴い、問題解決力を高めるために、自力解決を重視するとともに「共に追求する」ということを掲げたのは画期的なことでもあります。互いに考えを認め合い、総合的に判断し、それぞれのよさに共感して自分に生かすという学び方は、「生きる力」の形成過程そのものであり、同時に解決の方法を比較・検討し共通点や類似点などを探ることによって、個々の現象に通底する本質に迫ることができます。それは、価値ある数理の発見であり、一般化・法則化への道を拓くものであります。

これらの研究主題の解明をめざして、授業分科会や領域・課題別分科会において実践に基づき活発な研究討議が行われました。また、今年度から課題別分科会として、「問題解決」「個に応じる指導」「情報、関連的・横断的な学習」の3分科会が新設され、今日的な課題に関する研究も開始されました。

とりわけ、会場校の日新小学校では、第9回教育実践発表会として位置づけられ、「ひらかれた学校創り」の基本理念のもとに構想された総合的な学習の時間「イチイタイム」が公開され、子供たちの温かく、伸び伸びした交流に感銘を受けました。また、日新小学校がめざす「よさがひびきあう授業」は、本大会のねらいと響き合い、交流活動を通して一人一人の個性が輝き、仲間と学び合う喜びを存分に共有するなど、参観者を圧倒するダイナミックな授業が展開され、研究主題の具現化に貴重な実践研究を提供していただきました。

終わりに、本大会におきましても、小・中・高三部会の連携により円滑な運営が図られ、無事終了できましたことに対し、各委員のご協力に心から感謝致します。

来年度の函館〈亀田小学校〉大会に向けて、各支部での一層の研究実践の高揚をご祈念申し上げ、函館での再会を楽しみにしながら結びといたします。